

講師

長崎 恵美子

■ 学歴

1. 2016 年 川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健看護学専攻修士課程 修了

■ 学位

1. 2016 年 修士（保健看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 意思決定支援
2. 看護倫理
- 3.

■ 研究課題

1. 「心疾患をもつ高齢者の DNAR 選択に対する看護師の意思決定支援」に関する研究で、看護師の困難感を明らかにした。この困難感は、ターミナルケア態度や死生観、コミュニケーションスキルとの関連性が影響していると推測されるため、これらの関連性について研究を行い、結果を学会誌に投稿する。また、困難感の得られた結果から看護師のニーズに合わせた教育コーチングの開発を進める。また、高齢者の心疾患は今後、増加することが予測されるため、心不全患者の意思決定支援に関するエイドの作成についても研究計画を進めていく。
2. 「臨床看護師における倫理的問題と道徳的感性に関する研究」では、様々な価値観を尊重する多様性が求められている現代社会において、看護師の倫理的思考や行動は適切でなければならない。研究から教育の場があると、知識や関心度が高い結果が得られたことから、現代社会に必要な倫理教育方法について計画をたてる。

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期） 必須
2. 看護過程論（前期） 必須
3. 診療関連技術論演習（前期） 必須
4. ヘルスアセスメント演習（後期） 必須
5. 生活援助技術論演習（後期） 必須
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期） 必須
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期） 必須

8. 総合演習（通年）必須
9. 総合実習（通年）必須
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護技術論演習】 1 年次前期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「看護技術概説」「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術」「コミュニケーション」「記録・報告」について教授した。履修学年が 1 年生であることから、看護への動機づけを行うとともに、臨床での具体例を用いてわかりやすい説明を心掛けた。演習でも実際に技術を教授するため、動画の作成と活用、教員が実践しながら根拠や身体の使い方などのコツを具体的に説明するように心がけた。また、演習に臨む姿勢や身だしなみ等に関する規則やルールの順守についても積み重なるように教員間で統一した指導を心掛けた。
2.	授業科目名【看護過程論】 2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。グループワークで、約 6 名/G で構成される 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を教授した。この科目は、基礎看護学で一連のプロセスを学んだ後、各領域別実習でも共通の思考過程をたどるため、理解が深まり看護実践につなげることの楽しさを感じてもらう必要がある。そのため、学生の苦手意識を最小限にし、グループワークを通して多様な考えや意見を参考にできる学びと雰囲気づくりを心掛けた。個別指導の時間には、思考過程のポイントや情報の集め方などを紙面に起こし、補足説明を具体的に行って理解の助けとなるように対応した。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。学生が実際に対象者に技術を実施することはないが、侵襲や苦痛が大きい技術であり、倫理的配慮が重要な技術であることを演習指導で説明した。また、演習や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方や既習の知識や技術を応用していくことを説明し、理解を深めるようにした。本科目でも、対象の個別性を取り入れ、手順ではなく根拠をもとに考え応用していく思考を大切に指導した。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 1 年次後期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、ヘルスアセスメントの意義と「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」「感覚器系」「中枢神経系」「筋・骨格器系」のフィジカルアセスメントについて教授した。看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方は必須であるため、自己学習を通して知識の定着を図った。特に看護技術の要となるバイタルサイン測定については、聴診器・アネロイド血圧計を購入してもらい、何時でも何処でも自己練習を行える環境を整え、実技試験項目として演習で具体的に説明し、理解を深める関わりや青年期～老年期までの周囲の人々の測定を課題としてあらゆるシチュエーションでも可能にする技術習得を心掛けた。正確な技術が必要であるため、全体に改善する内容についてもフィードバックを詳細に行った。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 1 年次後期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「活動と休息」「清潔」「食事」

	「排泄」について教授した。自分の日常生活行動を今一度考えながら、病や障害をもち日常生活行動に制限が生じている対象に安全・安楽・自立・倫理的配慮をふまえた援助方法について考え、基本的な技術を実践する。その際に必要な考え方、原理・原則を守りながら個別性を生かした方法について、学生自身が気づけるような関わりを心掛けた。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 1 年次後期必修科目 1 単位の実習形式で行っている。初めて患者を受け持ち、入院生活を送る対象者の療養環境の見学やコミュニケーションの実践を通して、対象者が抱える思いについて考察する。また、対象者に必要な看護援助を考え実践する一連の過程を行う。学生は、初めての環境の中で緊張が大きいため、身体面や心理的を細やかに見ながら、実習指導者と連携を図りつつ、受け持ち患者とのコミュニケーションの導入を具体的にやってみせ、学生につなげ、対象理解を支えた。患者の個別性に関する情報を提示しつつ、援助計画の助言を行い、日常生活援助の実施と評価が行えるように支援した。また、実施後には、自ら行った援助がどうであったか、振り返りの場を設け、できた部分と改善する点を明らかにするよう努めた。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 2 年次前期必修科目 2 単位の実習形式で行っている。患者を受け持ち、初めての看護過程の展開と看護実践の一連の過程を行う。学生は、初めての長期実習となるため、緊張や体調管理などに注意を払う必要がある。そのため、患者や実習指導者とのコミュニケーション、記録を通して情報の集め方や整理、看護問題の方向性、看護実践の内容について助言や指導を行い、学生の看護実践を見守り、時に支援し、達成感を得られるように支援した。実施後には、学生と振り返りの場を設け、自ら行った看護実践を客観的に評価し、よりよい看護を行うための方向性を助言するように心がけた。
8.	授業科目名【看護総合演習】 4 年次前期・後期必修科目 2 単位の演習形式で行っている。ゼミ生 5 名に対して、看護総合実習に向けて、文献検索の方法を指導し、文献を用いた抄読会を実施し、得た知識を生かして実習計画が立案できるように指導を行った。実習後は自分で学習した知識と実習の体験の結びつきから学びを深めてレポートにまとめる一連の過程をサポートした。最終学年であり、次年度は看護師として働く社会人を意識した自主性や国家試験対策について、学習方法のアドバイスや資料の提供なども支援した。
9.	授業科目名【看護総合実習】 4 年次前期・後期必修科目 2 単位の実習形式で行っている。ゼミ生 5 名それぞれが看護総合演習で立案した実習計画を基に、病院での実習を行う。学生自らが実習の中で看護師と調整したり、多職種との連携とそこでの看護師の役割、優先順位の判断、リーダーの役割など次年度から生かせる学びの機会となるよう目的意識を持って自ら学ぶ実習にするよう支援した。複数受け持ちから優先順位の判断が学べるよう日々実習指導者との調整を図り、学生からは、社会で実際に複数受持ちを行いながら、優先順位の判断をする上で役立ったとの意見があった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 4 月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2014 年 12 月～現在に至る	Sigma Theta Tau International 会員	
3.	2015 年 12 月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
4.	2016 年 2 月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	
5.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護診断学会	
6.	2022 年 6 月～現在に至る	日本看護科学学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024.07	意思決定を 支援するツ ールとして の意思決定 ガイド作成 の一考察	共	第 30 回日本看 護診断学会学術 大会 （於：神戸国際 会議場）	①意思決定ガイドに関する先行研究や 開発過程を論文等から、整理した。2000 年代から意思決定ガイドの質保証とし て IPDAS が設立され、尺度が開発され た。資格基準 6 項目、認定基準 10 項目、 質基準項目 28 項目で構成され、特に資 格基準は満たさないと認められないと 定められている。意思決定支援に関する ツールは多様であるが、患者の価値観を 基盤とし、結果に意味づけができれば、 ガイドの開発は有用と示唆された。 ②共同発表者名：紙谷恵子，小野聡子， 奥由佳梨，那須明美，長崎恵美子，濱松 恵子，松本啓子，伊東美佐江
2.	2024.10	ジグソー法 を導入した 診療に伴う 看護技術演 習における 学習活動効 果-演習リー ダーを経験	共	日本看護技術学 会第 22 回学術 集会 （於：札幌市教 育文化会館）	①診療関連技術論演習を履修している 看護学科 2 年次生を対象に 1 項目の演習 リーダーを担い、メンバーに指導するジ グソー法を取り入れた効果を演習前後 で質問紙を用いて評価した。自由記載欄 を内容分析し、「内発的動機付け」「外発 的動機付け」「認知的方略」「外的リソー ス方略」の学びに関する 6 カテゴリーと「自

		して得た学びと気づきからの一考察-			信がない「集中できない」といった困難さに関する2カテゴリに分類した。ジグソー法は、知識・技術の獲得や課題達成に向けた能動的取り組みの視点で有効であったことが示唆された。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子
3.	2024.12	ジグソー法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果 －学習活動自己評価尺度からの一考察－	共	第44回日本看護科学学会学術集会 (於：熊本城ホール)	①診療関連技術論演習を履修している看護学科2年次生を対象に1項目の演習リーダーを担い、メンバーに指導するジグソー法を取り入れた効果を演習前後で質問紙を用いて評価した。知識・技術の獲得や課題達成に向けた能動的取り組みの視点に効果があったことが示唆された。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子 ③第44回日本看護科学学会学術集会プログラム集 P869-870

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	非がん性慢性呼吸器疾患患者の呼吸管理選択に関する支援ツールの開発と検証		(○小野聡子) (伊東美佐江) 長崎恵美子	2,320,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	情報システム管理運用委員	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	2 年生アドバイザー	
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集	
4.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	物品管理	